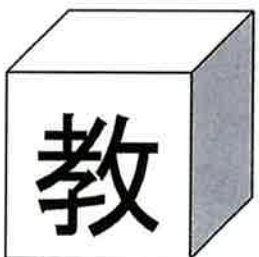
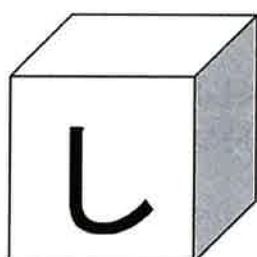
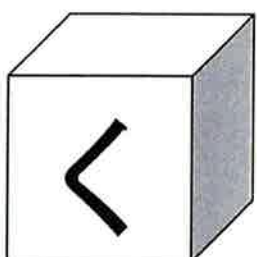
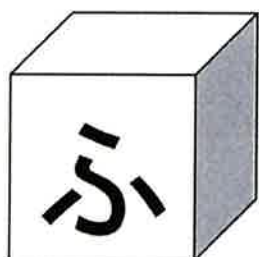
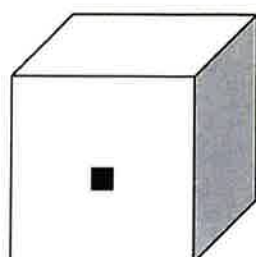
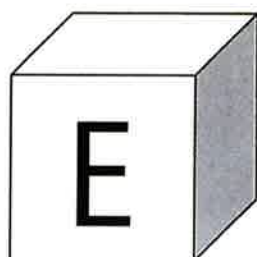
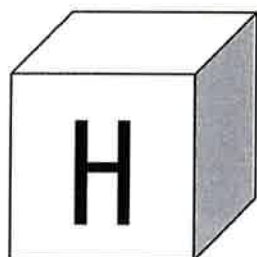
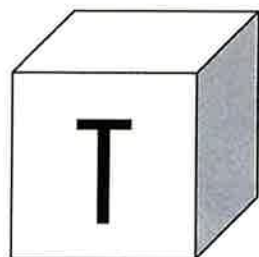


させぼ **社協** だより



特集

「THE・ふくし教育」についてご紹介

「ふくし教育」という言葉をお聞きになったことはありますか？
社協では、市内の学校や地域、企業などを対象として「ふくし」（ふだんのくらしのしあわせ）について理解を深めていただき、「共に生きる力」を育むことを目的とした取り組みを推進しています。
今回は、学校を対象とした取り組みについてご紹介いたします。

- ◆特集「THE・ふくし教育」についてご紹介 P2~
- ◆JAながさき西海様からのお米の贈呈 P6~
学び応援隊佐世保様からの辞書の寄贈
(株)セブンイレブン・ジャパン様からの食品類寄贈
- ◆おしらせ P7
- ◆善意のご芳志ありがとうございました P8
寄付のお礼について
LET'Sあたまのストレッチ

社会福祉法人 佐世保市社会福祉協議会



この広報誌は、会費・寄付金や、共同募金の配分を受けて作成されています。



車いす体験



「ふくし教育」ってなに？

みなさんは「福祉（ふくし）」と聞いて、
どのようなイメージを持っていますか？

「高齢者」「障がい者」「介護」「ヘルパーさん」「大変そう」「堅い」「イメージがわからない」などでしょうか。

漢字の「福祉」は、「幸せ」や「幸福」を意味する
「福」と「祉」の組み合わせになります。

また、「ふくし」という言葉には、

それぞれの頭文字をとって、

「ふだんの 暮らしの しあわせ」の

意味があるといわれています。

「ふくし」は、私たちの暮らしの中において、幸せを望む権利として、誰もが持つことができ、守られるべきものです。

では、すべての人が幸せな暮らしを実現するにはどうすればいいのでしょうか？

それぞれ個人が生きるための知識や知恵を得て活動し、多くの人々が協力や協働して支え合う「ふくし」の仕組みが必要になるのではないのでしょうか。

「ふくし教育」は、身近な生活の中で起こっている課題や問題について関心を持ち、体験を通じて考え、具体的に行動すること、つまり**主体的に考え、行動できる力を育み、他者に共感できる心を養うこと、それによって「共に生きる力」を育むことを目的**とした取り組みです。



バリアフリーについての講話



ユニバーサルデザイン体験



車いすバスケット体験

ふくし教育の取り組みには、障害のある方や各分野の専門の方に講師としてご協力いただき、講話をお願いしています。ここでは、その一部の方をご紹介します。



太田三枝子さん

太田さんは、45歳の時に事故に遭われて、失明されました。太田さんの活動は積極的です。伴走者と共にマラソンをされたり、現在は一人で行動できるようにと歩行訓練を

されています。

昨年、日宇小学校4年生を対象としたふくしの授業で、初めて講話をされました。「私が話すだけより、子どもたちが私に抱いた興味や疑問を尋ねてほしい」というご希望により質問形式による授業が行われました。「普段は子どもたちと話す機会が少ないので、とても楽しい時間だった。人と交流することが好きなので、このような依頼はとても嬉しい」と話されていました。



下釜豊広さん

下釜さんは、ユニバーサルライフ研究会で高齢者や障がいのある方の快適な暮らしを実現するために様々な研究をされています。

「バリアフリーは不自由な思いを取り除くこと、ユニバーサルデザインは最初からみんなが使いやすいデザインをすることですが、両者とも根本にあるのは『他者への思いやり』です。授業では実際に道具を使って実感してもらい、生活の中にあるスイッチやトイレの自動洗浄機、点字ブロックやエレベーターに気づきます。なぜそれがあるのか？誰のためにあるのか？それが『人を想うこと』であることを伝えています」と話されていました。



馬場信弘さん

馬場さんは「太陽の家（日本パラリンピックの父と言われた中村医師が設立した障害者施設）」にて、印章彫刻の技術を習得。昭和57年に佐世保で車いすバスケットのチーム

を結成されました。

「『ふくし教育』では、(子どもたちに)いろいろと説明するよりも、実際に車いすに乗ってもらって体験をしてもらいたい。そして車椅子バスケットは、健常者も車イスに乗れば参加できます。なので、一つのスポーツとして捉えていただき、そのようなスポーツがあることを知ってほしい」と言われています。



牟田口達也さん

牟田口さんは、生まれた時から目に障がいがあります。若い頃から、バンドを組んでテレビ出演されるなど活発で、現在も、グランドソフトボールの選手で様々な大会に出場

されています。

牟田口さんは、障がいを持つ人がどんなことに困っているのか、みなさんに理解してもらうために積極的に外出をしているそうです。

「障がい者や高齢者など区別なく『ふだんのくらしのしあわせ』が作れるような社会、自然にお互いが助け合う社会になるように『ふくし教育』では伝えていきたいです」と話されていました。

佐世保市社会福祉協議会では、「ふくし教育」を実施していただく際に参考にしていただくため「ふくし教育実践マニュアル」を配付しております。学校や地域(自治会・町内会など)、企業のみなさまご活用ください。



令和2年度に日野小学校で取り組まれた「ふくし教育」の内容をご紹介します。

日野小学校では、総合学習で「見つめようふくしの心～ともに生きるために自分ができることを考えよう～」をテーマに体験学習、交流、調べ学習などに取り組まれました。

学習体験を通して、人への思いやりの気持ちや願いに気づくこと。そして、そこから自分たちができることを考えて、ふだんのくらし（地域や学校など）の中でふくしの心をもって行動できるようになることが目的とされています。

今回は、昨年「ふくし教育」に取り組まれた当時の5年生担任の大坪先生と渡辺先生、現在6年生になったみなさんにお話を伺いました。

<プログラム>

- ①ふくしについて理解する
- ②障がい者について調べ、体験を通じて、願いや思いを考える
- ③日野町の町のふくしについて調べ、まとめる
- ④より良い日野小にしようと取り組む。

(全54時間)



大坪先生

Q.昨年、「ふくし教育」に取り組まれたきっかけは？

大坪先生：きっかけは、社協から頂いた「ふくし教育実践指針」で、「ふくしーふだんのくらしのしあわせ」と書いてあって、今まで「ふくし」は専門の方が行うことのように捉えていましたが、私たち（みんな）がしあわせに暮らしていくことだということを知り「ふくし」を身近に感じることができ、学習してみたいと思いました。

渡辺先生：「ふくし」と聞くと障がいのある方や高齢者のイメージがありましたが「ふだんのくらしのしあわせ」を知り、ふくし教育を通じて、私自身も学ぶことができました。

Q.「ふくし教育」を実施されて、生徒のみなさんに変化はありましたか？

大坪先生：昨年はコロナ禍で予定していた福祉施設への訪問ができなかったですが、渡辺先生 校内でもできることがあるのではないかとこのことで、「より良い日野小にしよう」という取り組みを行いました。

私たちとしても学校の中だけでも「ふくし」の意識が高まってもらえればと思っていましたが、ふだんの生活においても、街で困っている車いすの方の介助を行ったり、点字ブロックやスロープなどに興味を持って調べるなど、生徒の自主性が大きく成長しました。



渡辺先生

5年生のふくしの取り組み

5年生は、学校生活において「みんながしあわせ」になる取り組みとして、廊下を「はしらない、さわがない、みぎがわ通行」（略してはさみ）を徹底することを提案しました。この取り組みが習慣化していけば、学校以外の場所でも、人に迷惑をかけたり、ケガをしたり、させないで、みんながしあわせに生活することができると考えたからです。

1組

自作したお面をつけて「フクシレンジャー」に変身し、校内の見回りや、劇をして啓発を行う。

2組

廊下を走ることで、ケガなどの事故を起しやすくなることをクイズにし、みんなに興味を持ってもらえるように伝える。

3組

啓発用のポスターを作成し、低学年の生徒にも理解できるよう工夫をした。

デスラヌ
マクをaggait



5年3組のみなさんが作成された啓発用のポスター



昨年「ふくし教育」を行った日野小学校6年生のみなさん

「ふくし教育」に取り組んだ児童(現6年生)に感想を聞きました。

Q.車いす体験を行ってみてどうでしたか？

「最初、手を使って走行することは簡単でしたが、介助者に押してもらえるとすごく楽でした」

「家族と外出した時、車いすに乗っている人が困っていたので、車いすを押して介助をしました」

「車いすのことについて調べてみました」

体育館内では、スラスラと自力で走行する生徒さんが多くみられましたが、外の環境になると気づかなかった段差や階段、坂道に気づき、一生懸命ハンドルに力を込めて押している子どもたちの姿が印象的でした。

また、人に助けってもらうことで、「坂道も階段も行ける！」つまり一人ではできないことが、人に助けってもらうことで可能になるということです。

そして、車いすに乗っている人に気を付けながら、段差を降りる。車いすに乗っている人の気持ちを考え、て介助をしていました。

Q.アイマスク体験はどうでしたか？

「視界が真っ暗で、一つ間違えると大事故につながると思いました」

「一人だと心配だし、不安でした」

「バリアフリーの場所や点字ブロック、段差に気が付くようになりました」

最初は、介助者の腕に必死につかまりながら、一歩足を出して確認しながら進む生徒さんが多くみられました。しかし、介助者役の生徒からは、「段差があります」「階段です」などの声かけがあり、その声かけが体験者の不安を解消していることに気づいていました。

去年は、小学校15校、中学校3校で社協の関わりによる「ふくし教育」が実践されました。

学校独自に福祉に関する授業をされているところもたくさんあります。今後も社協は、皆様と共に「ふくし教育」を推進して参ります。



今年度の日野小学校車いす体験

JAながさき西海様からお米を寄贈していただきました。



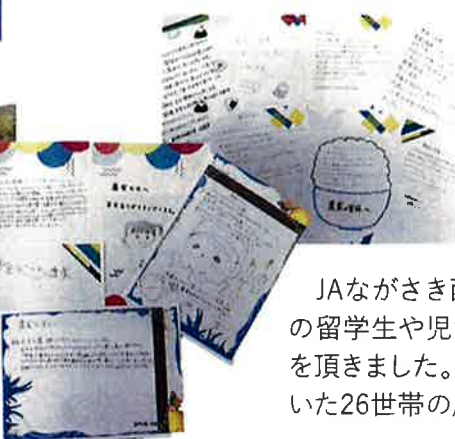
令和3年3月5日(金)JAながさき西海 世知原低温農業倉庫(世知原町岩屋口198-1)にて、贈呈式を執り行いました。

JAながさき西海のさせば地区女性部は、3年ほど前から食を通じて困窮世帯などへの支援活動を行ってこれました。コロナ禍において困窮世帯の増加や留学生等の生活難が顕著となる中で、「さらに何か協力できることをしたい」との思いから、JAながさき西海へ協力を依頼され、26世帯の農家の皆様から1,320kgの玄米を集められました。

今回集められたお米は、社協を通じて、生活に困窮している世帯や市内大学等の留学生、及び市内の子ども食堂、児童養護施設へ寄贈いたしました。



頂いたお米は
子ども食堂、児童
養護施設、市内大学
へと配送しました。



JAながさき西海様から頂いたお米に、市内大学等の留学生や児童養護施設の皆様からお礼のお手紙を頂きました。お礼のお手紙は、今回ご協力をいただいた26世帯の農家の皆様へ送付いたしました。

学び応援隊佐世保様から辞書を寄贈していただきました。

大野地区にて民生委員を務めている河内秀之さんは、子供の貧困について疑問を抱き、大学で「履修証明プログラム」にて学びを深め、「子供たちの経済格差による教育格差をなくすこと」を目的として活動されてこられました。

7,8年程前から高校生が使用していた辞書が卒業を機に、処分されていることを知り、「何か活用できないか」と考え、県内の高校で使用しなくなった辞書を回収し、今まで総計約1,500冊を児童養護施設や中学校、子ども食堂などへ無償提供されています。今回16冊の辞書を寄贈していただきました。

詳しくは、社協までお問い合わせください。



株式会社セブンイレブン・ジャパン様から食品・雑貨類を寄贈していただきました。

2月26日株式会社セブンイレブン・ジャパン様から食品16箱、雑貨26箱を寄贈いただき、生活に困窮されている世帯と生活支援をされている団体へ配付いたしました。



お知らせ

佐世保市社会福祉協議会 会員募集！

佐世保市社会福祉協議会では、福祉「ふだんのくらしのしあわせ」のまちづくり実現のため、様々な地域福祉活動に取り組んでいます。

いただいた会費は、地域福祉を推進する貴重な財源となっています。活動の主旨にご賛同いただける会員の皆様を募集いたしております。

自分たちが暮らすまち「佐世保」のふくし応援団として、ご協力を
よろしくお願いいたします。



食事サービス活動



各地区福祉協への支援

年会費

一般会員	200円	団体会員	5,000円
賛助会員(個人)	1,000円	特別会員(企業)	10,000円
特別会員(個人)	5,000円		

福祉情報が満載！

くらしに役立つ福祉情報ガイド

検索



佐世保市内の福祉に関する相談窓口や保健・医療・福祉サービス・福祉施設、ボランティア・NPOなどの情報を取りまとめた、くらしに役立つ「福祉情報ガイド」を開設しております。

佐世保市社協のホームページから入ることができます。お気軽にご利用ください。

善意のご芳志ありがとうございました

《個人》	大串 猶二様 (黒髪町)	吉岡 安生様 (愛宕町)	平尾 きよ子様 (佐々町)
木下 久之様 (神奈川県)	濱田 利広様 (小佐々町楠泊)	平田 和子様 (小佐々町矢岳)	久保田 スイ子様 (小佐々町楠泊)
前川 淑子様 (小佐々町小坂)	藤吉 かづ子様 (小佐々町楠泊)	故 鴨川 節子様 (世知原町中通)	
水本 裕子様 (吉井町福井)	酒井 四郎様 (吉井町立石)		
中野 正徳様 (江迎町乱橋)	米倉 誠二様 (江迎町根引)	森 霧代様 (江迎町赤坂)	
吉澤 アキヨ (江迎町小川内)	石田 忠様 (江迎町長坂)	浅田 幸子様 (鹿町町深江)	
柴山 浩樹様 (鹿町町北鹿町)	小林 八重子様 (宇久町平)	柄本 登良夫様 (宇久町平)	
竹村 和利様 (宇久町平)	張本 キク子様 (宇久町平)	坂口 豊様 (宇久町平)	
野口 マツ工様 (宇久町太田江)	張本 勝紀様 (宇久町平)	菅 佐登司様 (宇久町野方)	
田邊 敏昭様 (宇久町神浦)	中村 ハル子様 (宇久町太田江)	田口 広一様 (宇久町大久保)	

《団体》 ・本興寺寒行団 ・株式会社 セブンイレブン・ジャパン ・株式会社グランドコンフィアンス (世知原中学校)
・なすな会 ・西海物産協栄会 ・西和会 (西大和老人クラブ) ・Holiday yoga イベントグループ

*今回は2021年1月16日～2021年5月22日までに頂いた寄付を掲載させていただきました。
5月23日以降に頂いた寄付のご芳名は、次回114号 (2021年10月発行) に掲載させていただきます。

社会福祉協議会では、香典返しや寄付や募金などの一般寄付をいただいております。これらの浄財は、様々な福祉事業に活用させていただいております。また、香典返しをご寄付いただいた方には、挨拶状 (忌明け礼状) の印刷をしております (枚数は金額に応じます)。詳しくは、社協までお気軽にお問合せください。

ご寄付をいただきました

地域のために、有効に
活用させていただきます

・鹿町中学校生徒会様からプルタブをいただきました。



2021年1月18日、鹿町中学校生徒会様からプルタブ5.5kgをいただきました。プルタブが車イスに交換されることを知って、2020年7月から全校生徒に呼び掛けプルタブを短期間で集めていただきました。

・福石小学校環境委員会様からプルタブをいただきました。

2021年2月15日、福石小学校環境委員会様から約2年ほど前から学校で集められたプルタブをビニール袋 (45ℓ) 7袋分いただきました。

・相浦小学校様からプルタブをいただきました。



2021年3月10日、佐世保市立相浦小学校様から24.1kgのプルタブをいただきました。6年3組生徒の皆様が昨年7月から全校生徒に呼びかけて集まったプルタブになります。

今回ご協力頂き、ありがとうございました。

皆様から頂いたプルタブは、車イスに交換してもらうため、リサイクル業者へ送らせていただいております。

LET'S

あたまのストレッチ

空欄にひらがな (単語) を入れ、①～③の文字を使って単語を完成させてください。

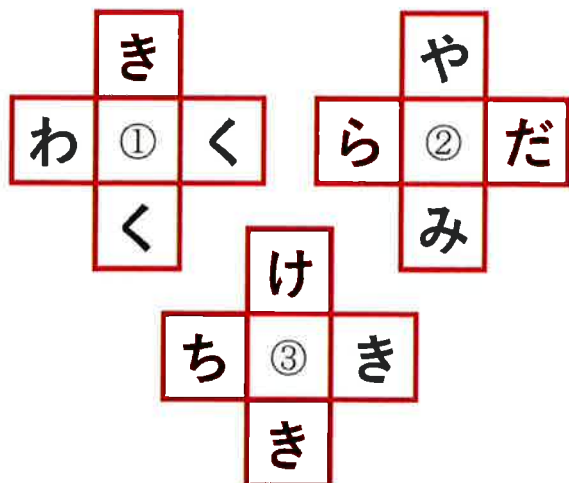
【応募方法】

・はがきかメールに氏名・住所・年齢・答え・社協だよりの感想やご意見を書いて社会福祉協議会へご応募ください。

・抽選で15名の方に図書カードをプレゼントいたします。

【締め切り】

令和3年9月30日 (木) 必着



前回の答えは「せだい」でした。かなり難しかったようですね。答えのヒントとしては、「社協だよりの福祉関係の単語から多く出題していますので、今後の参考にしてください。

【問合せ先】 社会福祉法人 佐世保市社会福祉協議会
〒857-0028 佐世保市八幡町6-1 ☎:0956-23-3174
FAX:0956-23-3175 ✉:ura@sasebo-shakyo.or.jp

